

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名:	カラーチェック 洗浄液/除去液 FR-Q (エアゾール)
会社名:	株式会社 タセト
住所:	神奈川県藤沢市宮前 100-1
電話番号:	0466-29-5638
緊急連絡電話番号:	0466-29-5638
FAX番号:	0466-29-5630
推奨用途及び使用上の制限:	浸透探傷試験用洗浄液/除去液

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール 自然発火性液体 金属腐食性物質 *記載のない物理化学的危険性は、分類対象外か分類できない。	区分1 区分外 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:ガス) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:粉塵) 急性毒性(吸入:ミスト) 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性 呼吸器感受性 皮膚感受性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 生殖毒性・授乳に対する 又は授乳を介した影響 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性	分類できない 分類できない 分類対象外 区分外 分類対象外 分類できない 区分2 区分2A 分類できない 分類できない 分類できない 区分外 分類できない 分類できない 区分3(気道刺激性、麻酔作用) 区分2(肝臓) 区分外
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間) オゾン層への有害性	分類できない 分類できない 区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
 高压容器:熱すると破裂のおそれ
 皮膚刺激
 強い眼刺激

注意書き: 【安全対策】

呼吸器への刺激のおそれ/眠気又はめまいのおそれ
 長期又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ
 すべての安全注意(本SDS等)を読み理解するまで取り扱わないこと。
 容器を密閉しておくこと。
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や
 火花による引火を防止すること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】 火災の場合には適切な消火方法をとること。

飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。

吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分及び含有量：

化学名	濃度(wt%)	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	PRTR法 ¹⁾
ヘプタン ^{II)}	50～60	142-82-5	(2)-7	非該当
その他	<3	—	—	非該当
噴射剤 LPG :プロパン	15～20	74-98-6	(2)-3	非該当
:ブタン ^{II)}	22～27	75-28-5、 106-97-8	(2)-4	非該当

危険有害成分

I) 化学物質排出把握管理促進法

非該当

II) 労働安全衛生法 57条の2

通知対象物質： ヘプタン（政令番号526）

ブタン（政令番号482）

毒物劇物取締法

対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合：

汚染された衣類を脱ぐこと。

皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

口をすすぐ、吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入：頭痛、めまい、眠気、陶酔状態、意識喪失、呼吸停止、麻酔作用。

皮膚：刺激、水泡、乾燥、灼熱感。

眼：刺激、発赤、痛み。

経口摂取：胃痙攣、吐き気、嘔吐。

症状は遅れて現れることがある。

応急措置をする者の保護：

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項：

安静と医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

消火剤：	小火災粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水 大火災：散水、水噴霧、泡消火剤
使ってはならない消火剤：	棒状注水
特有の危険有害性：	極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
特有の消火方法：	引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に入る前に換気する。
環境に対する注意事項：	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和：	少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収剤で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法・機材：	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策：	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策：	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気：	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気を行なう。
	安全取扱い注意事項：	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 眼に入れないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
	接触回避：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	技術的対策：	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。
 酸化剤から離して保管する。
 容器は直射日光や火気を避けること。
 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

混触危険物質：

保管条件：

8. ばく露防止及び保護措置（ヘプタンとして）

管理濃度： 未設定

許容濃度(ばく露限界値)：

日本産業衛生学会(2012年版) 200ppm

ACGIH(2011年版) TLV-TWA 400ppm

TLV-STEL 500ppm

設備対策：

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具： 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具： 適切な眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具： 適切な顔面用の保護具、保護衣を着用すること。

衛生対策：

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：

揮発性の無色液体

臭い：

特異臭

ph：

非該当

融点・凝固点：

-91°C(融点)

沸点、初留点及び沸騰範囲：

98°C

引火点：

-4°C(密閉式)

爆発範囲：

1.1-6.7vol% 又は 1.0-7.0vol%

蒸気圧：

4.6kPa (20°C)

蒸気密度(空気 = 1)：

3.46

比重(密度)：

0.68

溶解度：

水に不溶。 3.40mg/L (水・25°C)

アルコール、エーテル、クロロホルムに可溶。

オクタノール/水分配係数：

log Pow = 4.66 (測定値)

自然発火温度：

204~285°C

分解温度：

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル = 1)：

データなし

粘度：

0.420mPa・s (25°C)(粘性率)

「噴射剤」LPG

プロパン

ブタン

沸点：

-42°C

-0.5~-11.7°C

凝固点：

-187°C

-138~160°C

引火点：

-90°C

-72~-81°C

爆発限界：

2.2~9.5 vol%

1.8~8.5 vol%

蒸気密度：

1.15 (空気1)

2.07 (空気1)

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の取り扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 種々のプラスチック及び天然ゴムを侵す。
避けるべき条件：	高温、混触危険物質との接触、種々のプラスチック及び天然ゴムとの接触。
混触危険物質：	強酸化剤。
危険有害な分解生成物：	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを発生する。

11. 有害性情報（ヘプタンとして）

急性毒性：	経口 データなし
	経皮 データ不足のため分類できない。
	吸入(蒸気) マウスLC ₅₀ (2時間)値: 75mg/L(4時間換算値 53mg/L)に基づき、53mg/Lは蒸気圧からミストをほとんど含まない蒸気と判断してppm濃度基準値で分類した。53mg/Lは換算係数(1ppm=4.1mg/m ³)から12927ppmと換算されることから、区分外とした。
	吸入(ミスト) データなし
皮膚腐食性・刺激性：	ヒトへの影響として皮膚への接触により刺激性が認められるとの記述から、区分2とした。 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	ウサギを用いた眼刺激性試験において軽度な刺激性が認められたとの記述、ならびに眼を刺激するとの記述から、区分2Aとした。 強い眼刺激
呼吸器感受性又は皮膚感受性：	呼吸器感受性: データがなく、分類できない。 皮膚感受性: データがなく、分類できない。
生殖細胞変異原性：	in vitro 試験のデータしかないため分類できない。
発がん性：	EPA(1996)でDに分類されていることから、区分外とした。
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：	ラット又はマウスを用いた吸入ばく露試験において麻酔作用及び気道刺激性が認められたとの記述、ならびにヒトばく露例において中枢神経抑制や粘膜刺激性がみとめられたとの記述から、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。 眠気及びめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：	具体的な症例は示されていないが、肝臓に影響を与え、機能障害を生じることがあるとの記述から、区分2(肝臓)とした。 長期又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ
吸引性呼吸器有害性：	エアゾールはミストの状態で噴霧されるので、通常は該当しないため、区分外とした。

12. 環境影響情報（ヘプタンとして）

水生環境有害性(急性)：	データ不足のため分類できない
水生環境有害性(長期間)：	データ不足のため分類できない
オゾン層への有害性：	区分外

13. 廃棄上の注意：

残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
汚染容器及び包装：	空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	IMOの規制に従う。
	航空規制情報	ICAO/IATAの規制に従う。
	UN No.(国連番号):	1950
	Proper Shipping Name(品名):	エアゾール (Aerosols)
	Class(クラス):	2.1
	Packing Group(容器等級):	-
国内規制	陸上規制情報	消防法の規制に従う。
	海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
	航空規制情報	航空法の規制に従う。
	緊急時応急措置指針番号:	126
	特別安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法:	表示対象物質: 非該当 通知対象物質: ヘプタン、ブタン 危険物: 引火性の物、可燃性ガス 有機溶剤中毒予防規則: 非該当 特定化学物質等障害予防規則: 非該当
消防法:	危険物 第4類 第一石油類 (非水溶性液体) 危険等級II
高圧ガス保安法:	適用除外
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法: (PRTR法)	非該当
船舶安全法:	高圧ガス、エアゾール (危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2、3条、告示 別表第1)
航空法:	高圧ガス、エアゾール (航空法施行規則 第194条、告示 別表第1)

16. その他の情報

- 参考文献等:
- 1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
 - 2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
 - 3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
 - 4) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
 - 5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
 - 6) ㈱タセト 社内資料 (原材料MSDS)

記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。